

## Appendix Datamap 007

名称	廃棄物系バイオマス（燃料化ごみ：市町村別）		全道版	地域版
			○	-
目的	RDF化によってエネルギー利用可能な燃料化ごみの発生量を推計する			
内容 [数値の単位]	燃料化ごみ発生量[t/年], 燃料化ごみ利用可能量[t/年]（埋立処理を行っている場合）			
データ年	平成28(2016)年度			
計算手法 (概要)	<p>発生量：燃料化ごみ発生量は以下の式により算出した。</p> $W_i = r \cdot \sum_{j=1}^3 w_j$ <p> <math>r</math> : 一般廃棄物に占める燃料化ごみ発生量比率 (0.344)  <math>w</math> : 対象市町村における当該廃棄物搬入量  <math>i</math> : 市町村  <math>j</math> : 一般廃棄物施設搬入区分 (1=処理施設搬入, 2=直接資源化, 3=直接埋立) </p> <p>利用可能量：焼却処理の実績が年間10t未満、かつ燃料化施設での処理実績がない自治体では可燃物の埋め立てを行っているものとみなし、これらの自治体における燃料化ごみ発生量を利用可能量とした。</p> <p>廃棄物に関する統計調査結果1を元に作成した数量テーブルデータ（市町村別）に、市町村ポリゴン2を市町村コードをキーとして結合した。また、一般廃棄物に占める燃料化ごみ発生量比率は、富良野市をモデルケースとして想定し、同市における実績3を元に設定した。</p>			
季節変動	なし			
対象地域	全道			
構築データ（メタデータ）				
形式	シェープファイル	ポリゴン	19.3MB	
区域単位	市町村	引用元の利用条件に従う		
引用元データ			全道版	地域版
1	一般廃棄物処理実態調査結果（処理状況）【環境省】 <a href="http://www.env.go.jp/recycle/waste_tech/ippan/h28/index.html">http://www.env.go.jp/recycle/waste_tech/ippan/h28/index.html</a>	2016	○	-
2	国土数値情報 行政区域データ【国土交通省】 <a href="http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-NO3.html">http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-NO3.html</a>	2015	○	-
3	富良野市におけるごみ処理実績	2013	不可	-
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・焼却処理の実績があるものの、処理施設においてエネルギー回収を行っていない場合における未利用資源量については、廃棄物系バイオマス（燃料化ごみ：処理施設別）を参照してください。</li> <li>・利用可能量の計算手法において焼却処理実績を10t未満としたのは、小動物などの焼却処理を実施している場合など、可燃物の埋め立てを行っていても焼却処理がゼロとされない場合が含まれるためです。</li> <li>・引用元データ3の入手については、右記にお問合せください。</li> </ul>			問い合わせ
				環1

## Appendix Datamap 008

名称	廃棄物系バイオマス（燃料化ごみ：処理施設別）		全道版	地域版
			○	-
目的	RDF化によってエネルギー利用可能な燃料化ごみの発生量を推計する			
内容 【数値の単位】	燃料化ごみ利用可能量[t/年] （焼却処理を行っているが、発電・余熱利用を行っていない場合）			
データ年	平成27(2015)年度			
計算手法 （概要）	<p>利用可能量：各焼却処理施設のうち、発電・余熱利用を行っていない場合について、当該処理施設における処理量を未利用分（利用可能量）として引用した。</p> <p>廃棄物に関する処理施設毎の統計調査結果1を元に作成した処理量テーブルデータと、処理施設ポイントデータ2を、処理施設名称をキーとして結合し、発電・余熱利用の有無の情報を元に抽出した。</p>			
季節変動	なし			
対象地域	全道			
構築データ（メタデータ）				
形式	シェープファイル	ポイント	6.26kB	
区域単位	施設位置	引用元の利用条件に従う		
引用元データ			全道版	地域版
1	一般廃棄物処理実態調査結果（施設整備状況）【環境省】 <a href="http://www.env.go.jp/recycle/waste_tech/ippan/h28/index.html">http://www.env.go.jp/recycle/waste_tech/ippan/h28/index.html</a>	2015	○	-
2	国土数値情報 廃棄物処理施設データ【国土交通省】 <a href="http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-P15.html">http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-P15.html</a>	2015	○	-
備考				問い合わせ
				環1

## Appendix Datamap 009

名称	廃棄物系バイオマス（生ごみ）		全道版	地域版
			○	-
目的	バイオガスプラント等に持ち込むことができる「生ごみ」の賦存量を推定する			
内容 [数値の単位]	推計生ごみ発生量[t/年], 推計生ごみ利用可能量[t/年]			
データ年	平成27(2015)年度			
計算手法 (概要)	<p>発生量：各市町村における生ごみ発生量は、            ①堆肥化またはメタン化施設へ搬入している場合            ②それ以外            に分けてそれぞれ推計した。            ①については、堆肥化施設、メタン化施設への搬入量実績値1を引用した。            ②については以下の式で算出した。</p> $W_i = r \cdot \sum_{j=1}^3 w_j$ <p> <math>r</math> : 一般廃棄物に占める生ごみ発生量比率 (0.334)  <math>w</math> : 対象市町村における当該廃棄物搬入量  <math>i</math> : 市町村  <math>j</math> : 一般廃棄物施設搬入量区分 (1=処理施設搬入, 2=直接資源化, 3=直接埋立)         </p> <p>利用可能量：上記発生量のうち、メタン化施設への搬入実績のない市町村における数量を利用可能量とした。</p> <p>廃棄物に関する統計調査結果1を元に作成した数量テーブルデータ（市町村別）に、市町村ポリゴン2を市町村コードをキーとして結合した。また、一般廃棄物に占める生ごみ発生量比率は、富良野市における実績3を元に設定した。</p>			
季節変動	なし			
対象地域	全道			
構築データ（メタデータ）				
形式	シェープファイル	ポリゴン	32.4MB	
区域単位	市町村	引用元の利用条件に従う		
引用元データ			全道版	地域版
1	一般廃棄物処理実態調査結果（処理状況）【環境省】 <a href="http://www.env.go.jp/recycle/waste_tech/ippan/h28/index.html">http://www.env.go.jp/recycle/waste_tech/ippan/h28/index.html</a>	2016	○	-
2	国土数値情報 行政区域データ【国土交通省】 <a href="http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-NO3.html">http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-NO3.html</a>	2015	○	-
3	富良野市におけるごみ処理実績	2013	不可	-
備考	・引用元データ3の入手については、右記にお問合せください。			問い合わせ
				環1

## Appendix Datamap 010

名称	廃棄物系バイオマス（し尿・浄化槽汚泥）		全道版	地域版
			○	-
目的	バイオガスプラント等に持ち込むことができる「し尿・浄化槽汚泥」の賦存量を推定する			
内容 [数値の単位]	し尿・浄化槽汚泥賦存量[kL/年], し尿・浄化槽汚泥利用可能量[kL/年]			
データ年	平成27(2015)年度			
計算手法 (概要)	<p>賦存量：各し尿処理施設・汚泥再生処理センターにおける処理量を資源賦存量とし、次の式で算出した。</p> $W_i = w_{ia} + w_{ib}$ <p><math>w_{ia}</math> : し尿処理施設・汚泥再生処理センターにおけるし尿処理量  <math>w_{ib}</math> : し尿処理施設・汚泥再生処理センターにおける浄化槽汚泥処理量  <math>i</math> : し尿処理施設・汚泥再生処理センター</p> <p>利用可能量：上記発生量のうち、メタン発酵によるエネルギー回収の実績がない施設における処理量を利用可能量とした。</p> <p>廃棄物に関する統計調査結果1を元に作成した数量テーブルデータ（処理施設別）に、廃棄物処理施設ポイントデータ2を処理施設名称をキーとして結合した。施設名称などが一致せず、結合に問題がある場合は、名称の修正統一を行った。処理施設の位置が不明なものについては、航空写真等の確認や施設住所、Webサイトなどの情報を元に位置情報の付与を行った。</p>			
季節変動	なし			
対象地域	全道			
構築データ（メタデータ）				
形式	シェープファイル	ポイント	39.5kB	
区域単位	なし（施設位置）	引用元の利用条件に従う		
引用元データ			全道版	地域版
1	一般廃棄物処理実態調査結果（施設整備状況）【環境省】 <a href="http://www.env.go.jp/recycle/waste_tech/ippan/h28/index.html">http://www.env.go.jp/recycle/waste_tech/ippan/h28/index.html</a>	2016	○	-
2	国土数値情報 廃棄物処理施設データ【国土交通省】 <a href="http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-P15.html">http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-P15.html</a>	2015	○	-
備考				問い合わせ
				環1

## Appendix Datamap O11

名称	廃棄物系バイオマス（下水汚泥）		全道版	地域版
			○	-
目的	バイオガスプラント等に持ち込むことができる「下水汚泥」の賦存量を推定する			
内容 [数値の単位]	下水汚泥（濃縮汚泥）賦存量[dry-t/年], 下水汚泥（濃縮汚泥）利用可能量[dry-t/年]			
データ年	平成25(2013)年度			
計算手法 (概要)	<p>賦存量：各下水処理施設における、下水処理後の濃縮汚泥量の実績値（年間濃縮汚泥量の乾燥重量[dry-t/年]）を賦存量として引用した。</p> <p>利用可能量：上記賦存量のうち、メタン発酵による発電の実績がない施設における濃縮汚泥量を利用可能量とした。</p> <p>下水処理に関する調査結果1を元に作成した数量テーブルデータ（処理施設別）に、下水道関連施設ポイントデータ2を処理施設名称をキーとして結合した。発電の有無については、バイオガス発電施設に関するデータ3を参照した。</p>			
季節変動	なし			
対象地域	全道			
構築データ（メタデータ）				
形式	シェープファイル	ポイント	158kB	
区域単位	なし（施設位置）	引用元の利用条件に従う		
引用元データ			全道版	地域版
1	北海道の下水道2014【北海道建設部】	2014	○	-
2	国土数値情報 下水道関連施設データ【国土交通省】 <a href="http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-P22.html">http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-P22.html</a>	2012	○	-
3	下水処理場におけるバイオガス発電箇所一覧【国土交通省】 <a href="http://www.mlit.go.jp/mizukokudo/sewerage/crd_sewerage_tk_000104.html">http://www.mlit.go.jp/mizukokudo/sewerage/crd_sewerage_tk_000104.html</a>	2017	○	-
備考	メタン発酵によるエネルギー回収を行っているものの、加温などに利用しており発電を行っていない処理施設における処理量については、利用可能量としてカウントされている可能性があります。			問い合わせ
				環1